

第 11 回 日本生殖医療心理カウンセリング学会
2014.02.22-23、東京

生殖医療相談士として看護師の私ができること
～不安感が強く自信を持ってない患者の治療決定から終結までの支援を経験して～

小川 久仁子¹⁾ 井田 守¹⁾ 福田 愛作¹⁾ 森本 義晴²⁾
¹⁾ 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック ²⁾ IVF なんばクリニック

【発表要旨】

生殖医療相談士とは心理学を専門としない者が、不妊患者の心理特性やカウンセリングスキルを学ぶことにより、自らの専門性を生かしながら、不妊患者の様々な不安に対し支援を提供する役割を担う職種である。不妊治療において患者背景は様々で、患者の複雑な心情を理解した上での支援が常に重要となる。当院では医師の診察後の看護師説明以外にも、臨床心理士による心理カウンセリング、不妊症看護認定看護師によるコンサルテーション、生殖医療相談士によるナース相談、ティーパーティーや患者会といった様々なサポートを提供している。今回我々は、不安感が強く何事にも自信が持てない患者の、治療法決断から妊娠、流産、治療再開そして治療終結までを通して支援する機会を得た。看護師としての生殖医療相談士の立場から、様々な場面での支援を経験し、看護専門職生殖医療相談士の役割について、看護職の独自性を踏まえて報告する。